

令和7年度 校内研修実施計画書

1 研究主題及び教科

研究主題	自ら学び、つながり合う生徒の育成 ～「生徒と教師による見通しの共有」と 「探究のプロセスに沿った複線型授業」を通して～
教科・領域	全教科

2 主題設定の理由

本校では「生きる力を身に付け、未来を切り拓く生徒の育成」を学校教育目標に掲げて取り組みを行ってきた。昨年度、研修としては、自分で学べる生徒の育成を目指し、「学び方を教える」授業に取り組んできた。授業力 UP5 に基づいて、個別最適な学びを取り入れた授業づくりを行い、生徒が自分の状況に応じて学び方を選択できるよう授業を改善してきた。12月に実施したアンケートにおいては「自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」という項目に肯定的に回答した割合は、1年が94.％、2年が71.7％、3年が79.8％であった。学年によって開きがあるものの、全体で8割近くの生徒が自分の状況に応じて学習することができた。

一方で、教員に言われたことは進んでできるが、「主体的」に学習に取り組んでいる生徒は少ない。12月に行ったアンケートでは、「授業で何をしているのかわからないことがよくある」の項目で、全学年通して市の平均を7～9％下回った。授業で何をしたら良いかわからないために課題に取り組むことができず、その結果として学びに対して主体的になれない生徒が出てきているのではないかと考えている。

そこで今年度も「授業力 UP5」に基づく授業づくりを軸として、個別最適な学びを取り入れることで引き続き、自ら学ぶ力の育成に力を入れたい。またその過程で、「単元計画や授業の流れを生徒と教員が共有すること」、「探究のプロセスに沿って課題に取り組むこと」を通して、生徒が学習の見通しをもって主体的に取り組みやすいものに改善していく。

3 研究内容及び方法

《授業づくり》

○授業力 UP5に基づいた授業の計画

- ・育成を目指す資質・能力を明確化
- ・めあての提示とそれに正対した振り返り
- ・一人1台端末の活用

その際に、

- ① 探究の過程（「課題設定」「情報収集」「整理分析」「まとめ・表現」の流れ）を意識する
- ② 単元計画や授業の流れなどを生徒に提示する

生徒がこれからの学習に見通しを持てるようにする

③ 課題に対しては、個別最適な学習のスタイルで取り組む

- ・必要に応じて、個別で学ぶのか協働で学ぶのかを生徒に判断させる
- ・協働する場合は、自分の学びを深めるのに効果的な人と学習することを意識させる

《授業参観の視点の共通理解》

生徒が自分たちで課題を解決したり探求したりするための工夫や指導ができていたか

- ・「探求の過程」に沿っているか
- ・ICTを活用できているか
- ・協働が生まれていたか
- ・生徒が学び方を選んでいたら など

《日常的な取組》

① 学校生活全体における学習環境を整える。

- ・教師は正しい言葉で話し、黒板などに正確で丁寧な文字を書く
- ・授業ではわかりやすく、丁寧な指示をだす

② 家庭学習

- ・学習教材で日々の復習を行う
- ・家庭と連携した「学習・生活習慣チェックシート」を年間2回実施

《その他》

① 教員が学びやすい、相談しやすい環境づくり

- ・月1回程度、教員自主研修（サブちゃん）の実施
- ・サブちゃんを中心に、互いの実践や困り感をこまめに共有

② 授業力向上のための研修の推進

- ・日常的に互いの授業を参観しあう
- ・1人1回以上、学習指導案を作成し、その際には学年や教科で綿密に検討する

③ 教員の学びを見える化

- ・「学びの大木」作成
- ・教員が「学んだこと」「実践したこと」などをシールに書いて大木に貼る
- ・校内研修などの振り返りを職員室やトイレの壁に貼る

4 年間研修計画

	月	日	曜	内容等	備考
Ⅰ 学 期	4	3	木	第1回校内研修会 ・年間計画確認 ・今年度の方向性確認	
	5	21	水	第2回校内研修会 内容未定	
	6	12	木	・鈴教研委託発表プレ発表会（第3回校内研修） 1年1クラス 前川莉菜 先生 2年1クラス 清水大輔 先生	教委招聘
	7	2	月	第4回校内研修会 内容未定	
	8	8	金	第5回校内研修会 ・1学期のふりかえり	
2 学 期	9	17	水	校内公開期間（プチ公開）	
		18	木	・国語、数学以外で公開	
		19	金	・19日放課後、事後検討会	
	10	30	木	第6回校内研修 来月の発表に関して	
	11	21	金	鈴教研委託発表 当日 公開クラス 5教科+実技Ⅰ+特支Ⅰ	
3 学 期	1	22	木	第7回校内研修会 ・内容未定	
	2	19	木	第8回校内研修会 ・内容未定	
	3	19	木	第9回校内研修会 ・1年の振り返り	